

TOKATSU自治会フォーラム 質疑応答一覧

基調講演、事例報告の内容に関して参加者の皆様から寄せられた質問に対する回答を、一覧にしてご紹介いたします。

なお、講演や事例報告に関係のない内容、講演者や報告者では回答ができない内容の質問は除いております。ご了承ください。

1. 基調講演「担い手不足に悩む時代の持続可能な自治会活動のあり方」

講演者：地域づくりメディエーター 影山 貴大 氏

Q 1	講演で紹介のあった「身分制のルール」を緩めたいが、その具体的な方法があれば教えてほしい。 会社で長く働いていた方が自治会の中で役職につくと、会社に戻ったような感覚になるのか、役職で呼ばれて生き生きしているように見える。そういった方々は、身分制に疑問を持たず、会社のような自治会になってしまい、入りにくくなってしまうと感じる。
A 1	役職を完全になくすことは難しいと思いますので、権威と役職が結びつきづらいうようにするには意思決定の仕方を会員全体で決めるなどの工夫を試みるのも一つかもしれません。
Q 2	講演で紹介のあった「人間平等主義のルール」について、どのようにすれば緩めることができるか教えてほしい。 自治会全体としては「できる人ができるときに楽しんで行える活動」を目指している一方で、一部には「役員会などの出席率が悪い者は役員になってはいけない」と考えている方もおり、感覚のすり合わせができず悩んでいる。
A 2	一つは会員それぞれの得意なことや、実際に活動できる曜日や時間をまとめて、その人が関われる業務内容や動きを割り振る整理を一度してみるのも手かもしれません。
Q 3	過去に自治会役員を経験し、嫌な思いをしたために自治会を離脱した人々を自治会に取り込むためには、どうすればよいか。 自治会の構成世帯に出入りが少なく、高齢化が進み、どんどん自治会加入率が低下している背景がある。
A 3	一概に答えはありませんが、今の自治会が以前とは変わったこと。風通しの良い話し合いの場などが整理されている状態にして再度お声がけをするなどは手として考えられるかもしれません。

Q 4	自治会活動の新しい仲間を増やすにあたり、多世代の交流にも取り組むことになると思われるが、その際、「地域を盛り上げる」という目的の共有のほかに、大事にすべきことは何かがあるか。
A 4	会員同士がお互いに気軽に話し合えるような居心地の良さ、自治会の役に立てていると感じる自己有用感を感じる役振り、そして記載いただいた目的が共有されているという3つの要素が良いコミュニティの傾向とされています。(NPO 法人 CR ファクトリー調べ)
Q 5	若い世代は共働き家庭が増え、個人主義や家庭主義の傾向が強まっているように思うが、その中で自治会の取り組みについてどのように考えればよいか。
A 5	地域で助け合っていかなければならない感覚は若い世代も持っていると思いますが、現代ならではの距離感に地域活動をアップデートする必要があるかもしれません。「わずらわしいと感じない、程よい距離感の地域活動とは？」などのテーマで地域の若い世代に話を聴いてみるのもひとつかと思います。
Q 6	人材の「発掘」「募集」について、具体的な取り組みのアイデアがあれば教えてほしい。 一般的な募集チラシでは、人材が集まらない状況である。
A 6	募集する際には実際の作業内容、週何時間くらいの活動目安か、など活動の量と内容が見えるようにするとわかり易く、一度活動を見てもらう機会なども作って段階的に巻き込むと良いかと思います。期間限定でまずは関わってもらうのも良しかと思います。
Q 7	自治会活動の中から、一部の方がNPO化して活動するようになったという事例の紹介があったが、NPO化した理由や経緯について教えてほしい。
A 7	輪番制で意欲があっても役員さんが変わってしまうなどの流れから、何かしらの形で関わり続けたいと思う意欲ある方たちが活動していける形としてNPO化を検討されたり、収益なども得て副業レベルの収入を得ながら現役世代が関われるようになる在り方として立ち上げたりしているケースが多いです。
Q 8	地域ごとに具体的な連携先は異なると思うが、それぞれの地域の連携先の情報はどのように入手すればよいのか。
A 8	一つとして各地に設置されているNPO活動支援センター（名称は市により異なる。流山市は市民活動推進センター）や社会福祉協議会のボランティアセンターなどに聞くと情報が得られると思います。

Q 9	プロボノについて、そのような人材をどのように集めたらよいのか、具体的な方法を教えてほしい。
A 9	一つはチラシを作り草の根で人材を募集する手もありますし、登録は必要になりますが下記の「Grant」というプロボノの募集サイトを活用する方法もあるかもしれません。 → https://grant.community/

2. 事例報告「安心・安全で寄り添える街づくり」

報告者：流山市 松ヶ丘旭自治会 会長 太田 良一 氏

Q 1	組織の改革を行うなかで、一番大変だったことは何か。
A 1	自治会員の同意と理解が重要である（以前の会長経験者の猛反対あったが）。
Q 2	現在は役員が4名とのことだが、会長のほか3名はどのような役職につき、どのような業務を担当しているのか。
A 2	副会長は3名です。総務担当、行事担当、会計担当に分かれています。自らの担当が6割で残りの4割は相互に協力しています。
Q 3	防災カフェについて、具体的な内容や参加者の反応などについて、可能な範囲でお伺いしたい。
A 3	防災担当の方から備蓄用品を説明して頂きました。自治会や個人にて用意した方が良い品を説明して頂き、自治会員の防災意識の向上も有り、興味深くお茶を飲みながら参画して頂きました。
Q 4	お茶会について、参加人数を増やすために何か工夫していることがあれば教えてほしい。 お茶会に来ていた高齢者が、体力低下により参加できなくなったりしている。参加者を自宅まで迎えに行くなどしていたりするか。
A 4	高齢者をピックアップして、個人宅を訪ね参加を勧めた。高齢者に対しては自宅まで車で訪ねて送迎をしました。
Q 5	夜間パトロールについて、参加人数はどのくらいいるか。 また、パトロール以外にその前後で何かしら交流・コミュニケーションの機会を設けたりしているか。
A 5	防犯パトロールは毎月実施して、年末&その他にて実施しています。毎回概ね15名位参加しています。防犯パトロールの旗を街中に立てる等、会員同士が協力する事は結果として会員同士の絆が育ちつつ有ります。

Q 6	地域美化活動について、参加人数はどのくらいおり、主にどのような方が参加しているか。 また、謝礼等はあるか。
A 6	ゴミゼロデー（2 回/年）を始めとして 60 名位参加され、その他の機会にも毎月清掃を致しています。報酬はお茶程度です。
Q 7	高齢者の見守りに関しては、自治会のほかに民生委員や社会福祉協議会も取り組んでいると思うが、お互いの活動のすみ分けは、どのように考えているか。
A 7	すみ分けに関してはしていません。自治会としてはお茶会等の機会やオータムフェスタ等の機会を設けて、高齢者を見守っています。
Q 8	役割を引き受けられない等の理由で高齢会員の脱会が増え、一方で若い世代の自治会未加入世帯も増え、会員が減り、自治会が弱体化していると感じている。これらの問題について、考えていることや取り組んでいることがあれば教えてほしい。
A 8	上記の流れは当会にも言えます。オータムフェスタでは児童の発表を設けています。児童が参画すれば親世代が来場することになる事を目指しています。
Q 9	高齢者がすすんで活動に参加できるような、効果的な方法があれば教えてほしい。 マンション自治会で近所付き合いが少なく、悩んでいる。
A 9	誰しものが付き合いのきっかけが欲しいのです。お茶会、オータムフェスタ、餅つき等をきっかけ、機会にしたいのです。皆様のアイデアが有りましたらお聞かせ下さい。
Q 1 0	持続可能な自治会活動という視点から、現役世代や女性会員の活用（単にお手伝いとしてではなく）について、何か取り組んでいることがあれば教えてほしい。
A 1 0	役員会の中に女性役員の意見が欲しいのです。なかなか実現していないのです。根気強く考える以外ないと考えます。40 代、50 代の女性のサークルを考えています。
Q 1 1	イベント等で食品を取り扱う際、気を付けていることや工夫していることがあれば教えてほしい。
A 1 1	以前は保健所に届出をしていました。今は食中毒に気をつけて欲しいとの事です。食品調理の皆さんには手洗い手袋消毒等健康管理には協力して頂いております。

Q 1 2	納涼祭からオータムフェスタに変更して、良かった点、悪かった点について、それぞれ教えてほしい。 昨年の納涼祭で熱中症によるトラブルがあり、今後の実施方法を検討中である。
A 1 2	良かった点は、暑い夏から秋に変更した事により子供が参画しやすくなった事、親御さんの来場があった事、協力者の健康管理ができた事です。悪かった事は感じておりません。